

あなたのチカラはきつと、 誰かのチカラに――。

取材を終えて――
■顔を合わせるだけでも

「ツルさんっ、お弁当持ってきたよ〜」。
御年99歳、佐々木ツルさん(宮守町達曾部)。
お弁当に届く程、深々と頭を下げます。「耳遠くなつたがらよ、ありがとうございます」。表情がパツと明るくなったように見えました。「変わりながった〜?」。「うなずき手を合わせる姿が愛らしい」。「市の広報の人来てだよ」「じゃ、おしよすな(恥ずかしい)。紅(ベニ)さすが(化粧するか)」。笑顔満開。思わず年齢を聞き返してしまいました。

特集では、**一町、企業、集落自治会の活動**を紹介しました。個人の善意を町で支える仕組みにした交通支援。精密加工会社が始めた買い物支援。地域住民の心温まる手作りお弁当配達。市内にはまだまだたくさん活動があります。「自分たちのできることを」。取材中、たく

さん耳にしました。

いつかは市内でも、自動運転の車が私たちを運ぶかもしれません。ドローンが荷物を届けてくれるかもしれません。ロボットが料理をしているかもしれません。でも、社会がどんなに便利になっても、地域をつくるのは、やっぱり人。

住民が主体の、小さな拠点による地域づくりが始まり7年。地区センターを拠点に、各地区の工夫が光ります。地域で力を合わせて頑張っています。活動5年目を前に鱒沢地域づくり会議の小友会長は、「さまざま活動し、ようやくと慣れてきたように見える。今後は、それぞれの活動が発展、つながっていくといい」と展望を語ります。

「できることを持ち寄ることで、解決できることがある」。複雑化する地域の困りごと解決に向け、地域や関係機関などと日々奮闘する職員の言葉です。

地域づくりと言っても、地域おこしや健康づくり、児童福祉など分野はさまざま。でも、そのどれもが「幸せづくり」と言えるのではないだろうか。どんなに小さな支援でも、大きな幸福感がそこには見えました。あなたのチカラもきつと、誰かを幸せにする大きなチカラ。顔を合わせ、会話するだけであっても、人の手で行われる支え合いは何より豊かです。

特集 終わり